



次年産に向けての 取り組み



多年生雑草の防除

防除のポイント

多年生雑草のオモダカやクログワイ、ホタルイは、稲刈り後も生育を続け、地中で塊茎を形成し肥大させることで、翌年の発生源となります。このような難防除雑草を減らすためには、本田で効果のある除草剤の散布に加え、収穫後に塊茎を減らす対策を行います。
※ホタルイは越冬株の短い根茎からも発生します

多年生雑草



オモダカ クログワイ ホタルイ

対策①「秋耕し」

塊茎は乾燥や寒さに弱いので、地中にあった塊茎を地上に出して枯らします。完全に無くなるわけではありませんが、翌年の塊茎の発生量を減らすことができます。

対策②「刈跡除草剤散布」

収穫後、茎葉から根まで浸透移行して地下部まで枯らすことのできる除草剤(ラウンドアップ)の散布をします。塊茎を肥大させず枯らすことができれば、翌年の発生量を減らすことができます。

除草剤
ラウンドアップ
マックスロードの
水稻刈跡散布の
ポイント

50倍液を散布してください。
10アールあたり
原液:1000mL
水量:50L

■収穫時期が早くしかも温暖で、クログワイの再生が見込める地域

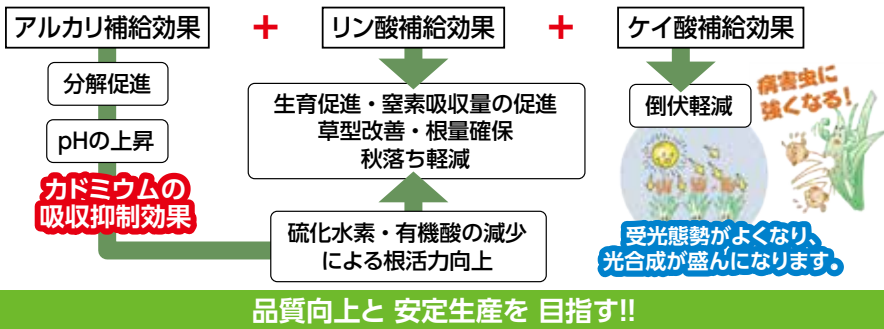
■収穫時期が遅くしかも低温でクログワイの再生が緩慢な地域

高刈り*
地上20cm位のところで刈ること

塊茎寿命:
オモダカ、ホタルイ1~2年・クログワイ3~5年

土壌改良資材の散布

土壌改良資材の 効果



JALレーク伊吹の土づくり資材

田華の豊稲の粒状(左)と砂状(右)



基準施用量
粒状の場合 60kg~80kg/10a
砂状の場合 60kg~100kg/10a
(圃場の土壌pHに応じて施肥量を調整して下さい。)

詳しくは、営農担当者までお問い合わせ下さい!!

営農指導活動

pick up かぼちゃの生産振興 出荷前の目合わせ研修会の開催

7月16日に開催した研修会では、生産者と関係者とが一同に会し、現物を確認しながら県下の品質基準を統一するために開催しました。昨年産より、全農しが・平和堂さんからの提案で、「近江のかぼちゃ」に取組み、品種転換による収量と品質の向上や、食品残渣を活用した堆肥を使用した持続可能な栽培推進を行い、店頭では「循環エコ野菜」として販売されます。JAでは、輪作体系として、かぼちゃあとのブロッコリーを推奨し、農家所得の向上と園芸作物の生産振興を行っています。ご興味のある方は、ぜひお気軽にお声がけ下さい。



特産振興課
営農指導員
藤原 良輔